しむらから

東京聴覚障害者支援センターだより
第98号（季刊）
2019年4月26日
しむらから編集委員会

新年度に臨む

開設54年（増改築後37年）目となる今年は、平成最後と、令和元年を迎える年度になりました。センターは平成22年、新法に移行してから9年になります。制度に適わず新たに必要な需要が潜在化している現実に、丁寧に向き合いニーズに即した福祉支援を目指し続けたいと思います。今年度は以下のとおり取組んでいきます。

○サービスの向上に向けて
　利用し易さの追求。B型事業におけるセンター特定品の研究。支援力の研鑽と環境改善の努力。

○センター版働き方改革
　よりよい職場としていくために、日々の円滑なコミュニケーションの心がけと励行。きめ細かな引継ぎに努め、偏りのない相互の業務確認。

○地域とのより良い関係
　継続している行事への積極的な参加、受入れ。手話講習会の充実と発展的な取組、考究。

　大きく整理するとこのように集約できるのではないかと思います。個々の役割を心に留め協働し、満足度と利用率の向上に繋がるよう努力をしてまいります。また、センターは施設の改築時期を迎えております。広く情報を集め、障害の特性を熟慮したものを追及していきたいと思います。平成32（令和2）年は、東京都による事業更新審査を迎えます。事業継続をしていくため、今年はその準備をしていく年になると思います。関係者皆様のご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。

（所長　高橋）

寄贈に感謝

4月16日（火）、東京善意銀行を通して、自動車の（株）ホンダカーズ東京中央支部、「ホンダ販売労働組合」様より、全自動洗濯機2台を寄贈していただきました。当日は、ホンダ販売労働組合様4名と東社協福祉振興部長も立会され、利用者も全員参加しました。利用者代表からもお礼の言葉を述べました。ホンダ販売労働組合様はじめ関係者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました

（所長　高橋）

設置された洗濯機
（他1台）

目録贈呈式

本紙に写る写真は、本人の許可を得て、掲載しております。

利用希望者の見学、入所・生活・その他
相談をいつでも受け付けております
お気軽にご連絡ください
東京聴覚障害者支援センター
〒174-0056　板橋区志村2－19－5
FAX 03-3967-0052
TEL 03-3967-0051
E-mail tyoukaku@yuai.or.jp
Web page http://www.yuai.or.jp/17/index.html

生活講座

ピクトグラムという言葉をご存知の方もいらっしゃると思いますが、まだまだ、一般化していない気もします。身近なところではトイレや避難口マーク、電車のシルバーシートで高齢者や車イス、妊婦さんマーク等の表示がそれになります。広辞苑では絵文字、図表と解説されています。

実はこのピクトグラムは1964年開催の東京オリンピックをきっかけに広まったそうです。そういえば、走るマークや槍投げなどを図案化した切手がありましたね。当時は海外から来るアフリカ人や欧米人にも分るものをと、著作権を放棄し世界へ先駆けた原型を若き美術家集団が生み出したものだそうです。今ではスポーツに限らず、禁煙マークや、階段、エレベータ等など公共施設にはいくつもの表示物を目にすることができます。ピクトグラムという言葉になじみがなくても、海外も含めあらゆるところで生活に密接した情報手段の一つとなっています。ニッポン凄いなと誇りに思います。

今回は、このピクトグラムについて、現在ピクトグラムアーティストとして活動している藤代洋行さんを招き講座を開きました。

講師による著作権の解説

藤代さんは2011年「3・11東日本大震災」を機に、多くの犠牲者が出た災害弱者と言われる方々に情報をいち早く伝える必要性を強く感じて、意を同じくしたメンバーが集まり、災害マークを中心とした様々なピクトグラム制作に携わってきたといいます。こうした契機を基に、知的財産権（著作権）の保護や商標登録についての解説に始まり、実際に制作された「地震、津波」などの動画や静止画を見せていただきました。聴覚障害のある利用者が投影された画面を目に

画面を見て状況を表現

し、津波の状況や避難の動作を表す場面もあり、文字を超えた共通認識を感じた時間でもありました。

参加した支援員から「日常生活の中で、手話を含め言葉での説明が難しい事柄を、こうしたピクトグラムでの情報があればより齟齬（そご）を減らせるのでは」と言う感想もあり、今後の支援に生かせるヒントがあったと思います。

講座を通し、ピクトグラムは読めない・書けない・話せないなど、文字の理解にハンデイのある方と伝え合う一方法として、有効的な活用ができるのではないかと感じ、取組んで見たいと思いました。

（所長　高橋）

外出支援（就労）

センターでは、事業の一環として、就労継続支援B型の利用者15名を対象に、会社や工場の見学を行っています。現場の職員や担当者から話を聞くことで、より具体的な「働くイメージ」を描くことを目的としています。より就労に向けた見通しを持てるよう支援を行なっています。

平成30年度は板橋区清水町にある「株式会社　藤村工業」さんを訪問しました。藤村工業は、豆腐のパックを密閉したり、スナック菓子などでよく見かける真ん中開きの袋で商品を包装す

る機械を製造しており、国内外で特許を取得しているすごい会社です。さぞや近代的な建物と想像していましたが、小さなビルに囲まれたやや古びた町工場といった会社でした。昭和27年4月に創立されたそうです。社長自ら工場内を案内してくださり、実際にパック密閉や包装の作業を体験させていただくことができました。めったにない経験で、見学者も楽しく行なっていました。

↑パックされるところ

仕事というものは単に賃金を得る手段ではないと思います。働くことを通じ、自分が何をしているか、社会とどう関わっていくか確認する手段でもあると思います。センターで注文を受け行なっている作業の中に『検尿キット』があります。検尿キットは健康診断等では必要な存在です。しかし、普通に健康診断を受けている方々には私たちの、施設での作業は気づかない事でしょう。

いくつかの共通点を感じた外出支援でした

（支援員　海老塚）

藤村工業様 ありがとうございました。

防災訓練

平成31年4月9日、池袋防災館にて、3・11の東日本大震災のDVD視聴、消火体験、煙体験、地震体験を行いました。池袋防災館は3・11以降に新しくリニューアルされ、最新の設備で防災体験を行う事ができます。東日本大震災のDVD視聴では、利用者達は職員の手話通訳によって地震の全体像、津波の恐ろしさや仕組みなど、体系的に説明を聞く事ができ、東日本大震災を詳しく知ることができました。これらの様子を見ると利用者の理解度に合わせた情報の提供が必要であることを再認識致しました。今後もこのような取り組みをしていかねばならないと思います。

煙や震度体験では、火災の館内放送やTVの緊急地震警報などが聴覚障害のために聞こえない状況がありました。緊急通報や警報が聞こえないと避難の初動が遅れます。幸い、聴覚センターには各フロアや居室には緊急館内光信号装置、そして居室には床の振動装置を備えており、初動の遅れを解消するようになっています。しかし自宅や外出先で災害に遭遇した場合はこれらの設備が整っていないため初動が遅れます。社会全体で避難のバリアを解消していく取り組みが求められます。また煙体験では屈んで避難経路に行きますが、避難誘導灯が非常口のドアの上にあるため、非常口が解らない場面がありました。現実には黒い煙の中で避難しますが、煙の中では非常口の上部にある避難誘導灯は見つけられないのではないか。非常口を声で確認できなければ出口を見つけられないのではないか。避難誘導灯は屈んだ避難者の目線の下にも設置した方がよいのではないかと思いました。これらの体験を踏まえ、将来建て替えるセンターには、既に備え付けられている装置はもちろんのこと、避難誘導灯を低い位置に設置するなど対策を取れればと思います。

（支援員　杉本）

第三者委員（施設オンブズマン）

施設オンブズマンを、昨年に引き続き、「十島典弘」氏に委嘱しました。十島さんは区内で身体障害者相談員も行っており、利用者目線で活動していただいております。

今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

職員紹介

□12月から調理員をしております、工藤勝治（くどうかつじ）と申します。若いころは会社勤めをしておりましたが、料理の仕事がしたいと思い、「給料要らないから働かせてください！」とお願いして飲食店で1年半修行をしました。その後お弁当屋さんを開きました。調理員の仕事は以前の仕事とは全てが違い、驚きの連続です。調理員のみなさまに教えていただきながら修行の毎日です。趣味はパチンコです。センターの皆さん街で見かけたら気軽に声をかけてください。

□まだ気候の不安定な日が続きますが、徐々に日が和らぎ、過ごしやすい日が増えてきたように感じます。此度はこの場をお借りして挨拶する機会を頂けて、嬉しく思います。4月から東京聴覚障害者支援センターにて働かせていただくことになりました、佐藤冴香（さとうさやか）と申します。平成29年度に大学院を修了し、臨床心理士の資格を取得いたしました。以来様々な現場で研鑽（けんさん）を積ませていただいています。そのご縁でこちらでも働かせていただけることになり、嬉しく思います。

これまでの現場では就学生が中心であり、支援センターのように人生の先輩たちが過ごされている場で働くのは初めてのため、とても緊張しています。まだまだ不慣れな事ばかりですが、皆さんと一緒に作業したり、活動していくことで皆さんへの理解を深められたらと思います。またいずれは臨床心理士として、日々の生活だけではなく、皆さんの悩みや心の健康という方面からも寄り添い、支援していきたいと思います。皆さま、今後ともどうぞよろしくお願いします。

実習生
（1/26～4/26）

大学生
0名

専門学校
1名

その他
0名

人数	利用者	定員数
入所	19	30
通所	7	10

機能訓練	6名
生活訓練	6名
就労移行	1名
就労継続（B型）	13名
短期入所	0名

利用者動静

年齢（歳）	平均	最年少	最高齢
男性	56.6	24	77
女性	61	48	76
全体	58.6	24	77

（2019/4/26現在）

平成最後の「しむらから」が無事完成しました。新元号が令和に決まりましたが、みなさんの予想は当たりましたか？私の予想は「安進」なにひとつ当たりませんでした。笑　（本田）